



2012年2月
第7号

発行 社会医療法人 福島厚生会
福島第一病院 内視鏡室

胃瘻あれこれ

～胃瘻の基礎から管理方法まで～

胃瘻に関する日常管理において、カテーテルの管理と共に重要なのは、胃瘻周りの皮膚に関する管理（スキンケア）です。
漏れの原因が判明しても、漏れが続く場合や、漏れが少量の場合には適切な処置を行うことで皮膚の炎症を防ぐことができます。
今回は、漏れがある場合のスキンケアについてご説明します。

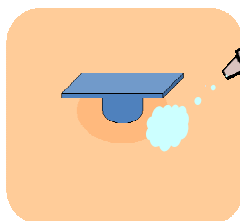
胃瘻からの漏れが起きている時のスキンケア

胃の内容物が、瘻孔から漏れてくる場合、そのままでは漏れてくる内容物に含まれる胃酸などの影響によって瘻孔周囲の皮膚が炎症を起こしてしまいます。
漏れの原因の対策を取りながら適切にスキンケアを行うことで、炎症を最小限に留め、早期に皮膚の状態を改善できます。

①瘻孔周囲の皮膚面を洗う

入浴、シャワー浴をするのが一番良い方法です。毎日できない場合などは、微温湯を注射器などで瘻孔周囲にかけながら濡れたタオルで優しく洗うことで代用出来ます。洗った後は濡れたままで放置せず、きちんと自然乾燥させることも大切です。また、栄養剤投与前後は瘻孔周辺を濡らしたガーゼやウエットティッシュで拭いてください。

日常は

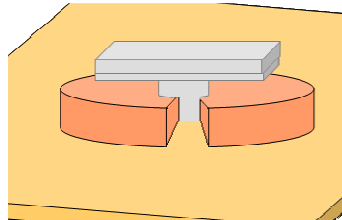


栄養剤の
投与前後は



②洗った後のスキンケア

常に漏れがある場合には、皮膚保護のために白色ワセリンを薄く塗る事も効果的です。また、漏れがある場合には、カテーテルを引っ張ってしまいたくなりますが、決して引っ張らず、逆に押し込み気味にしておいた方が瘻孔への負担が減ります。漏れてくる内容物を吸収させる場合に、ガーゼを貼り付けガーゼ全体が濡れてしまうと、乾きにくいいため炎症が起こる範囲を広げてしまいます。漏れを吸収させる場合には、ティッシュのこよりや、お化粧品に使用するスポンジ状のパフを使用し適宜交換する方がより効果的な皮膚保護が出来ます。



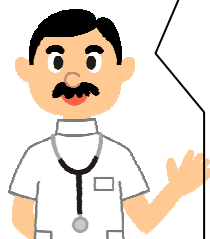
胃瘻カテーテルの外部ストッパーと皮膚の間にYの字に切れ目を入れた化粧用のパフを挟む（厚さは1 cm程のもの）

胃瘻に関する問い合わせ

福島第一病院 地域連携室 Tel 024-557-6601
内視鏡室 Tel 024-557-5111 (代) 内線 155

胃瘻についての疑問にお答えします！

Q1：瘻孔周囲の皮膚が炎症を起こしている時、消毒の必要は？



- A1：瘻孔から漏れがある場合、胃酸などが含まれており皮膚の表面を傷めてしまうことがあります。発赤から始まり湿疹、びらん適切な処置を行わないとどんどん悪化します。発赤程度できちんと処置できれば問題ないのですが、湿疹やびらん形成となるとどうしても皮膚表面の処置としてイソジンなどによる消毒を行いたくなりますが、消毒を行うと皮膚の余計な乾燥を引き起こし、余計に悪化させる場合もあります。



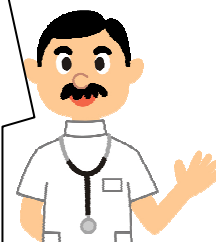
基本的には、洗浄後に皮膚を自然乾燥させて、その後漏れが多い場合などは白色ワセリンの塗布を行う程度で良いでしょう。また、重度発赤の場合には、ステロイド剤の塗布も有効です。ただし、漫然と塗り続けるのではなく経過を確認しながら状況に応じて使用を終了するようにします。

*ステロイド剤の使用開始、終了に関しては、医師の診察を受けた後、医師、薬剤師から指導を受けてご使用ください。

Q2：“こより”と“パフ”の使い分けはどうすればいいの？

ティッシュで作ったこよりは、あくまでもティッシュですので、吸収する量は多くありません。なので、少しずつ漏れてくるような場合に使用していくのが最適な使用方法です。また、ティッシュの場合には頻繁に交換しても経費があまりかからないのが魅力です。一方で、パフは吸収量が多めです。また、吸収した液体を広げることが少ないのも魅力です。経費面からみても、洗って干して再使用しているので2～3枚準備しておいて随時交換する事でより良い使用方法になります。また、パフはクッション性もある事から外部バンパーによる刺激の予防にもなりますので、漏れだけでなく使用方法はいろいろあります。

少ない漏れの場合には、ティッシュのこよりで対応し、漏れが少し多めの場合にはパフを使用するのが最適な使い分けと思います。



福島第一病院のホームページに胃瘻あれこれのデータを掲載しました。

直接アドレスを入力する場合は

<http://www.daiichihosp.jp/daiichi/sinryouka/shoukaki.htm>

【福島第一病院トップページ下部の診療科のご案内→消化器科と進んでください。】